

「菊池事件～司法の責任を問う～」

日時 2021年6月7日（月） 13：30～  
場所 衆議院第一議員会館 大会議室

寄せられた国会議員の先生方のメッセージ（敬称略・あいうえお順）

名前	阿部知子
所属	衆議院議員 立憲民主党
備考	
内容	
ハンセン病における入所者の人権回復のためにいつも最先頭で斗ってこられた菊池恵楓園の皆様とそれを支えてこられた多くの関係者の願いは「特別法廷」で死刑判決そして刑を執行されたFさんの名誉の回復に凝縮されていると思います。私も政治に関わる一人として今回の再審請求の運藤に、ともに参加して参ります。	

名前	泉健太
所属	衆議院議員 立憲民主党
備考	ハンセン病問題の最終解決を進める国会議員懇談会事務局次長
内容	
本日もご参集の冤罪犠牲者のご家族、ご遺族の皆様へ改めまして、お見舞いお悔やみを申し上げます。超党派のハンセン病問題解決を目指す議員連盟事務局次長として、この菊池事件を忘れられることの無いようまた、差別偏見のない社会をめざし、法の整備にも尽力してまいります。 コロナ禍、お集りいただきました皆様、関係者の皆様の健勝をこころよりお祈り申し上げます。	

名前	金子恭之
所属	衆議院議員 自由民主党
備考	ハンセン病対策議員懇談会会長
内容	
ハンセン病対策議員懇談会の会長をしております、衆議院議員の金子恭之でございます。 ハンセン病の元患者の方々やご家族の方々におかれましては、偏見・差別の中で多大な苦痛と苦難を強いられてきました。国の隔離政策を違憲としたハンセン病国家賠償訴訟判決から20年が経過した今もなお、その被害の回復に向けて解決すべき課題が残されております。	

当議員懇談会は全国ハンセン病療養所入所者協会をはじめとした関係者の皆様と力を合わせ、ハンセン病問題の解決に向けて様々な活動を行ってまいりました。

近年では平成20年に、元患者の方々の福祉を増進、名誉の回復等に関し、現在もなお存在する問題の解決の促進について定める「ハンセン病問題の解決の促進に関する法律」が成立し、令和元年にはご家族の方々に対する補償法も成立しました。

また高齢化が進展する国立ハンセン病療養所の入所者の方々の療養環境の充実も課題であり、令和元年に、大学からの医師派遣につながるよう、療養所の医師の兼業規制を緩和する法改正を行いました。

引き続き、ハンセン病に対する偏見・差別の解消、療養所の医療・介護の充実に向けた取組を着実に進め、関係者の皆様が穏やかな生活を送ることができる社会の実現を目指し、尽力してまいりたいと存じます。

名前	川内博史
所属	衆議院議員 立憲民主党
備考	
内容	
国家権力も間違える時は間違える。なぜなら国家権力の内実もまた人間の営為だから。司法も、行政も、立法もそう。だから、間違えた時に、それを認め謝罪し違うという「人としての営為」が国家権力に備わっていなければ、民主主義は前進せず、より良き社会とはならない。菊池事件は、今も生き、次の時代に社会をつなぐ為に私達自身の手で解決しなければならない民主主義の課題です。	

名前	清水忠史
所属	衆議院議員 共産党
備考	
内容	
この間、ハンセン病の元患者や家族の名誉を回復し損害を賠償する法律が実現してきました。2019年に成立した補償法は前文で、「ハンセン病元患者家族等に対するいわれのない偏見と差別を国民と共に根絶する」決意を述べています。しかし、今もハンセン病の全国13の国立療養所の入所者のうち、社会に残る偏見と差別などを理由に、4割近い380人が本名を伏せた生活を余儀なくされていることがマスコミの調査で判明しています。熊本県の菊池恵楓園では97人が園名を使っています。日本弁護士連合会は、菊池事件が隔離法廷における憲法違反の審理によって死刑判決が下された冤罪事件であるとし、検察に再審を求めています。日本の司法には、被疑者段階での取り調べ時の辩护人立ち合いを認めず、	

自白を強要することによって冤罪を生み出すメカニズムが存在します。  
 再審請求審における証拠開示についても極めて不十分で、ようやく再審が  
 認められても検察による即時抗告がそれを阻害しています。これまでも  
 数々の冤罪事件が認定されており、冤罪を完全に防止する手立てがない  
 以上、死刑制度は廃止するべきと考えます。  
 今こそ、司法の責任として菊池事件の再審を速やかに開始し、元死刑囚の  
 名誉回復を図ることが必要です。私も冤罪被害者等の支援活動を行う皆さんへ敬意を込め、連帯のご挨拶を送ります。

名前	高橋千鶴子
所属	衆議院議員 共産党
備考	ハンセン病対策議員懇談会副会長
内容	
<p>           えん罪は絶対あってはならない。常々重く感じていることです。            菊池事件は2016年に最高裁が謝罪していながら、再審が行われなかった            のは本当に許せません。ハンセン病療養所への強制かくりという人権侵害            の上に、無罪の罪で命を奪われたこと、それが「特別法廷」であって、通            常の法の下に裁判をうける権利さえ奪われた・・・その無念さをたとえ            何十年たっても回復させようとする、皆様の運動に心から敬意と感謝を            申し上げます。徳田先生、豎山さんをはじめ、皆様に心からお礼のごあい            さつといたします。         </p>	

名前	橋本岳
所属	衆議院議員 自由民主党
備考	
内容	
<p>           菊池事件は、ハンセン病の差別というわが国の歴史のくり返してはなら            ない一部として記憶され、語りつがれるべきものと考えます。本会を通じ、            いまなお残るハンセン病による差別の解消が、一歩でも進むことを祈念            します。         </p>	

名前	福島みずほ
所属	参議院議員 社会民主党
備考	
内容	
<p>           集会にご尽力されている皆様に敬意を表します。            無知が偏見を生み、偏見が差別を、差別が暴力を生んだと言われるハンセ            ン病の歴史の中で、決して忘れてはならない国家による最大の暴力＝死刑            をもう一度現在の問題として考えたいと思います。         </p>	

これからも、この問題を皆さんと一緒に取り組ませていただきます。

名前	本多平直
所属	衆議院議員 立憲民主党
備考	ハンセン病問題の最終解決を進める国会議員懇談会事務局次長
内容	
<p>冤罪は残酷な人権侵害です。 ましてや手続きに瑕疵のある冤罪、冤罪による死刑など論外です。 共に闘います。</p>	

名前	宮崎政久
所属	衆議院議員 自由民主党
備考	
内容	
<p>本日、菊池事件に関する徳田靖之先生の貴重なご講演があり、尊敬する 豎山勲さんからも原告としてアピールがあるとのこと。お集りの皆さまの もとで有意義な時間となりますことをお祈り申し上げます。 立派な活動を長く継続されている皆さまの前で多くを語るのは恥ずかしい 限りですが、私は、人が努力をして克服することが出来ないことをもって 差別したり、偏見をもつことが大嫌いです。その思いで弁護士として活動 し、今は縁あって政治の世界で活動させてもらっています。 ハンセン病についても、特別法廷についても、同じ思いで関わっております。 政務官 という政府の一員であった時も、一議員である今も変わるところ はありません。これからも、私が出来る最善を尽くし、皆さまへの一助 となれば幸せであるという思いでいることをお伝えして、皆さまへのメッ セージとさせていただきます。ありがとうございます。</p>	

名前	森山 裕
所属	衆議院議員 自由民主党
備考	ハンセン病問題の最終解決を進める国会議員懇談会会長
内容	
<p>ハンセン病問題の最終解決を進める国会議員懇談会の会長をしております 衆議院議員の森山 裕でございます。 ハンセン病の元患者の方々やご家族の方々につきましては、偏見・差別の 中で、多大な苦痛と苦難を強いられてきました。国会と政府はその要望を 悔悟と反省の念を込めて真剣に受け止め、平成13年に元患者の方々、令和 元年にはご家族の方々に対する補償法が成立し、補償金の支給が進められ てきました。 また、平成20年には、元患者の方々の福祉の増進、名誉の回復等に関し、</p>	

現在もなお存在する問題の解決の促進について定める「ハンセン病問題の解決の促進に関する法律」が成立し、令和元年にはご家族も対象になりました。

ハンセン病に対する偏見・差別の解消するためには、その歴史や正しい知識について普及啓発を行うことが重要であり、ハンセン病問題の最終解決を進める国会議員懇談会としても、入所者の皆様やご家族の皆様が安らかな生活を送ることができるよう引き続き努力してまいります。

また、昨年来、新型コロナウイルス感染症の流行が社会に大きな影響を及ぼしています。こうした中で普及啓発の活動や地域との交流などが難しくなっている場合もあるかもしれません。引き続き、この未曾有の感染症を克服し、健全な社会活動が再開されるよう尽力するとともに、ハンセン病問題に長年取り組んできた者として、病気や感染症を理由とする偏見・差別があってはならないことを強く発信していきたいと思っております。